

ここから3 — 障害・年齢・共生を考える5日間

First steps on disability, aging and co-existence

2018年12月5日（水）～ 12月9日（日）

国立新美術館（東京・六本木） 1階展示室1A 入場無料



展覧会概要

本展は、文化庁主催の「ここから—アート・デザイン・障害を考える3日間—」展（平成28年10月）と、「ここから2—障害・感覚・共生を考える8日間」展（平成30年3月）を継承する展覧会です。「障害・年齢・共生を考える」をテーマとし、年齢については「エイジノレス」をサブキーワードとしました。障害や年齢を超越して、ものをつくることについて考え、また同じ場を集って展示を見ることにより、アートを通じて共生社会を考える機会となるよう企画するものです。

今回は、国立新美術館1階の展示室を使用し、また、「障害者週間」と会期を重ねることで、共生社会への関心や理解がより深まることを期待しています。障害のある方たちが制作した魅力ある作品と、文化庁メディア芸術祭の受賞作などから選ばれたマンガ、アニメーション作品や、参加型のメディアアート作品等を展示するほか、音楽家の大友良英氏によるサウンドイベントや監修者によるトークなども併せて行います。

企画趣旨

本展は、文化庁主催により、平成28年10月に開催した「ここから—アート・デザイン・障害を考える3日間—」展と、平成30年3月に開催した「ここから2—障害・感覚・共生を考える8日間」展を継承する展覧会です。3回目の開催となる今回は、「障害・年齢・共生を考える」をテーマとし、年齢については「エイジノレス」をサブキーワードとしました。障害や年齢を超越して、ものをつくることについて考え、また同じ場に来て展示を見ることにより、アートを通じて共生社会を考える機会となるよう企画するものです。また、「障害者週間」と会期を重ねることで、共生社会への関心や理解がより深まることを期待しています。本展では、障害のある方たちが制作した魅力ある作品と、文化庁メディア芸術祭の受賞作などから選ばれたマンガ、アニメーション作品や、参加型のメディアアート作品等を展示し、ワークショップや監修者によるトークなどのイベントも併せて行います。年齢や障害にかかわらず、様々な人々が気軽に楽しみ、そこから新たな意識につながることを願っています。

前山裕司（本展監修／美術評論家、新潟市美術館館長）

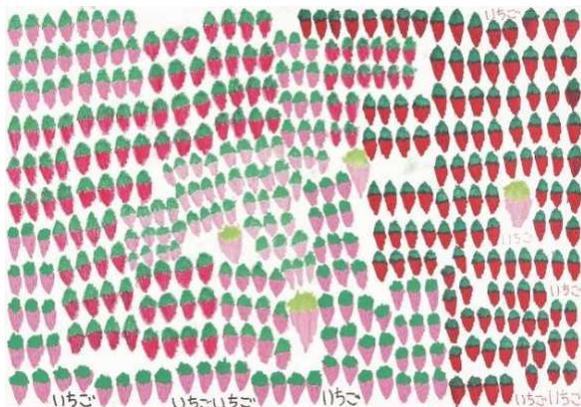
小林桂子、戸田康太（本展協力／独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムオフィサー（メディア芸術））

展覧会内容

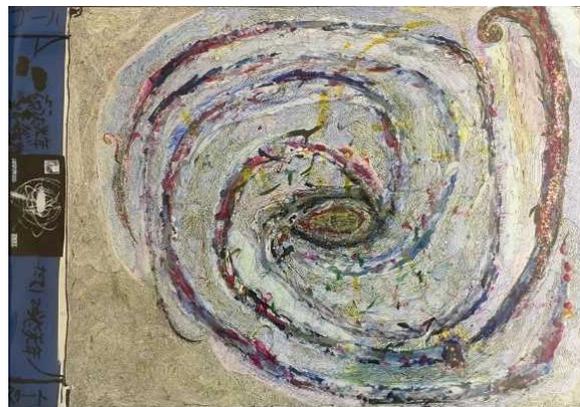
1) ここからはじめる ～生きる・つくる・アートの原点に触れる～

障害のある人の創作活動には、表現すること、さらには生きることの原点に触れるような作品が見受けられます。生きることとつくることが等しいような作品は、見る人の心に直接届きます。さまざまな作品との出会いから一歩が始まるはずですよ。

- 出品予定作家／石栗仁之、大倉史子、大庭航介、中崎強、藤岡祐機、横溝さやか、ほか



①大倉史子《いちご》2009年



②石栗仁之《僕達の世界の銀河系》2016年



③藤岡祐機《題名なし》2006～2008年

2) ここからおもう ～多様な「エイジ/レス」を描くメディア芸術～

マンガやアニメーション、ゲームやメディアアートなどのメディア芸術作品から、本展のテーマである「年齢」や「生きること」と結びつくようなマンガやアニメーション作品を展示します。これらは、年を重ねることや、現実と向き合うことについて考えさせるだけでなく、それを表現するための多様な表現のあり方に気付かせてくれます。加えて、凹凸が浮き出る特殊なインクを用いてマンガを印刷し、直接触れることで作品理解に役立てることができる「触図（しよくず）」の展示も行います。

- 主な出品予定作家／池辺葵、いがらしみきお、湯浅政明、Debanjan NANDY



④池辺葵《どぶがわ》2012～2013年 ©Aoi Ikebe(AKITASHOTEN)2013



⑤Debanjan NANDY《Chhaya》2015年 ©Debanjan Nandy

3) ここからひろがる ～「いまのわたし」が感じる世界～

私たちは、生活のなかで常に何かに触れ、その感触から様々な情報を得ています。ここでは、「触れて感じ取る力」を使って空間を知覚するプロジェクトを紹介します。それぞれ違った年齢や身体的な特徴を持つ私たち自身は、世界をどのように感じ取ることができるでしょうか。

- 主な出品予定作家／echo project



⑥echo project 《echo》2017年

特別展示【おばあちゃん画家－丸木スマ】

丸木スマ(1875-1956)は70歳を超えてから、息子の丸木位里の妻である丸木俊のすすめで絵を描き始め、81歳でなくなるまでに700点以上の絵を描きました。身近な動物や花などを自由奔放に描いた、生命力あふれる作品は今でも多くの人を惹きつけています。



⑦丸木スマ《めし》1950年 原爆の図丸木美術館蔵

イベント

「ここからオーケストラ」

音楽家の大友良英さんと一緒に、「音が鳴るもの」を使ってみんなで演奏する参加型イベントを行います。

日時：12月9日（日）

場所：国立新美術館 3階 講堂

※参加者の募集は、展覧会ホームページ等で行います。

※開催時間は後日お知らせします。



⑧大友良英 撮影：佐藤類

「鑑賞サポート」

会期中、展示会場内でアート・コミュニケータが鑑賞に手助けが必要な方のサポートをします。

（協力：一般社団法人タップアップラボ/アート・コミュニケータ東京）



参考画像：「ここから2」展での鑑賞プログラムの様子

※このほか、監修者によるギャラリートーク等の実施を予定しています。

開催概要

展覧会名：ここから3 — 障害・年齢・共生を考える5日間

会期：2018年12月5日（水）～12月9日（日）

休館日：会期中無休

※国立新美術館は毎週火曜日休館

開館時間：10：00～18：00

※12月7日（金）、8日（土）は20：00まで

※入場は閉館の30分前まで

会場：国立新美術館 1階展示室1A

主催：文化庁

共催：国立新美術館

制作：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

観覧料：無料

- 展覧会に関するお問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）
- 展覧会ホームページ：<https://www.kokokara-ten.jp>
- Twitter：@kokokara_bunka
- facebook：<https://www.facebook.com/kokokaraten/>
- 国立新美術館ホームページ：<http://www.nact.jp>



国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

アクセス

東京メトロ千代田線 乃木坂駅
青山霊園方面改札 6出口（美術館直結）
東京メトロ日比谷線 六本木駅
4a出口から徒歩約5分
都営地下鉄大江戸線 六本木駅
7出口から徒歩約4分
※美術館には駐車場はございません

掲載についてのお問合せ

「ここから3」展 広報事務局（アート・ベンチャー・オフィス ショウ内）担当 遠藤・市川
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-18-8-301
TEL：03-3485-7866 FAX：03-3485-7851 e-mail：avo-shou.pr@ktd.biglobe.ne.jp